人工海浜公園に関するアンケート調査結果について

日本大学大学院　　学生員○伊藤晋作
日本大学大学院　　学生員　高橋直大
日本大学理工学部　フェロー竹澤三雄

１．まえがき

東京湾は閉鎖性の強い内湾であり、しかも、流入河川の流域は、人口や経済が高密度に集積した地域である。このため、東京湾は背後地域からの環境負荷の影響を受けやすく、その水質の改善が課題となっている。また、東京湾においては、江戸時代以来埋立てによって土地を造成し、水際線を改変しながら開発がなされてきた結果、豊かな生物相を持つ干潟や浅場等が減少し、人々が水と触れあうことのできる自然海岸線もわずかになっている。このため、東京湾に残された良好な海域環境を保全するとともに、東京湾の環境を一体として捉え、各地域で浅場・干潟の造成等の環境創造を積極的に行い、水質の向上等環境の改善を図り、生物相の回復を図ることにより、東京湾地域を将来の世代へ継承するにふさわしい自然と共生する豊かな空間として再生することをめざすことが必要である。この問題に対応するべく埋立地には、多くの人工海浜公園が造られてきた。人工海浜公園は、埋立てによる土地の造成によって失われた海岸・干潟を復元し、生物をよみがえらせ、海の自然を回復させることを目的としている。また、人工海浜公園は海岸の自然の回復・保護だけが目的ではなく、人々が心と体の安らぎを求める場として、人々が海に接することがもう一つの目的とされている。[1] 本研究は、こういった起点から造られた人工海浜公園が利用者にどのように受けとめられ、今後、どうあるべきかを利用者と管理者からヒヤリング調査し、人工海浜公園整備のあり方について検討したものである。

２．調査対象公園について

東京都、神奈川県、千葉県の１都２県より次の６箇所を調査対象公園とした。すなわち、東京都は「お台場海浜公園(1975 年開園)、葛西海浜・臨海公園(1989 年開園)、若洲海浜公園（1990 年開園）、城南島海浜公園(1991 年開園)、神奈川県では海の公園(1979 年開園)、千葉県では稲毛海浜公園(1976 年開園)を選んで、それぞれの海浜公園においてアンケート調査を実施した。なお、これらの調査は 1997 年 8 月から夏冬に実施してきた。

３．公園利用者によるアンケート調査結果について

各公園への来園者１００名に以下の１６項目についてヒヤリングによるアンケート調査を実施した。（１）性別（２）年齢（３）住所（４）来園に使用した交通機関（５）家から公園までの所要時間（６）来園の回数（７）来園の目的（８）公園に必要と思われる施設（９）公園に不必要と思われる施設（１０）公園内の好きな点（１１）公園内の嫌いな点（１２）他の海浜公園に行ったことがあるか（１３）再度この公園に来園したいか（１４）今後、東京湾岸エリアをどのように利用すべきか（１５）この公園が障害者や高齢者に対して整備されているか（１６）今後、海浜公園と海との関係はどうあるべきか。以上のアンケート調査の結果、公園に対する主な意見は次のとおりである。**お台場海浜公園**では、「公園の入口及び出口がわかりづらい」、「ゴミ箱の設置の増加」、「夜中の暴走族の取締り」、「ゆりかもめの運賃が高い、混雑する」などの意見が多かった。**葛西臨海・海浜公園**では、「駐車場の料金を安くして欲しい」、「歩きやすい道にして欲しい」などの意見が目立った。**若洲海浜公園**では、「新木場駅からのバスを増やして欲しい」、「走り屋が多い」などが挙がった。**城南島海浜公園**では、「交通の便が悪い」、「路上駐車が多い」、「工場が近くにある」などの声があった。**海の公園**では、「凸凹の道、段差が多い」、「海に出にくい」、**稲毛海浜公園**では、「休憩施設の設置」、「段差が多い」などの意見のほかに、「人が多すぎる」、「来園者のマナーが悪い」とか、あるいは「ごみが多すぎる」といった意見が多く、これらの意見も公園施設の計画に当たっては十分に考慮しなければならない点である。

キーワード　人工海浜公園　アンケート調査　埋立て　東京湾岸　利用者　管理者
連絡先　千代田区神田駿河台１－８　日本大学理工学部土木工学科　TEL・FAX　０３－３２５９－０６７６

４．公園管理者側による意識調査と結果

各公園の管理事務所においても、公園を管理する立場から、以下の 3 項目について意見をいただいた。（１）この公園の良いところ（２）この公園で困っているところ（３）今後、この公園の改善すべきところ。その結果は次のとおりである。**お台場海浜公園**（１）釣りが解禁された。夜も明るく、警備員もいるため治安が良い。（２）路上駐車や騒音、ゴミの問題がある。（３）公園施設のいくつかが壊れてきたので、その修繕が今後必要である。**葛西臨海・海浜公園**（１）野鳥が多い。海と触れ合える。（２）ホームレスの問題。犬の放し飼い。トイレのいたずら。（３）バリアフリーにしたいが莫大な費用がかかる。**若洲海浜公園**（１）釣りが出来る。家族で楽しめる。（２）木が育たない。ローリング族が多い。野良猫が多い。（３）公園へのアクセスが悪いため、交通機関の整備が必要である。**城南島海浜公園**（１）豪華客船と世界最大級のコンテナ船、飛行機を間近で見ることができる。（２）キャンプ場でのいたずら。ローリング族。路上駐車。（３）バスの運行回数や駐車場を増やしたい。**海の公園**（１）市内唯一の海水浴場や、潮干狩りが楽しめる。水陸両用の車椅子の無料貸し出しを行っている。（２）年間を通して利用できる施設が無い。（３）新しい施設を整備する予算が無い。維持管理で精一杯である。**稲毛海浜公園**（１）人工砂浜や、南国ムードたっぷりのプールがある。（２）年間を通して利用できる施設が無い。砂浜が管理しきれていない。（３）プールを改良し、サッカー場を整備して、来園者を増やしたい。

５．考察および結論

自然の砂浜が消失していると言われ続けてきている現在、この砂浜を取り戻すべく各地方自治体では人工海浜という新しい技術を駆使して海と挑戦し続けている。そして、その砂浜の背後に人工海浜公園を建設し、一人でも多くの人たちに開放し心の安らぎを与えている。海面の埋め立て工事についてはその歴史は大変に古く、有名なものとしては江戸の街づくりが良く知られているところである。しかし、その埋立地が商業用地あるいは工業用地として利用されてきたことは記憶に新しいところであるが、さらに住宅用地としてあるいはレクリエーションの場として利用される新しい時代になってきたのである。このような観点から人工海浜公園の利用に関して人々がどのような意識を持っているかについて、ここ数年間にわたって調査を続けてきたので[2)]その一部についてここにアンケート調査の結果を示してみたものである。しかし、ここに得られた結果では、誰もが気軽に利用できる人工海浜公園ではなく、利用者がある程度限定された人工海浜公園になってしまっているという感想が得られたのである。ホテルやショッピングセンターの立ち並ぶお台場海浜公園は別として、他の人工海浜公園における利用者に共通している意見は、「売店・レストランを増やして欲しい」という意見が多く、ゆったりとした、心の安らぎを得るための公園というイメージとは程遠い。とくに、設問１５にあるような障害者・高齢者に対する設備の整備はかなり遅れており、若洲海浜公園、海の公園、稲毛海浜公園を除く３つの人工海浜公園で整備されていると答えた人数が全体の５０％以下である。ますます進む高齢化社会や障害者をはじめ、誰もが気軽に利用できるような公園の施設設備が今後ますます必要であると考えなければならないと思うけれども、たとえばお台場海浜公園に見られるようなホテルやショッピングセンター、あるいは住宅との密接度なども考慮した公園整備が多くの人々が望んでいるところのようである。人工海浜公園を管理する立場の人たちは、高齢者や障害者に対するバリアフリー対策としての施設の整備や、補修作業も進めているが、既設の公園ではその修繕費もままならぬというのが現実の問題のようである。同じ人工海浜公園といえどもその立地条件により、人工海浜公園の魅力は様々である。今後の人工海浜公園のあり方として、臨海部だからこそ実現できるレクリエーションの場として、また、海とのふれあいや景観、広々とした空間で誰もが気兼ねなく利用できる人工海浜公園を建設していくことが求められている。人工海浜公園を利用する立場の人たちも、公園におけるルールやマナーを守り、公衆道徳を忘れないことが大切である。そして、今後の人工海浜公園が憩いの場として、幅広い人々に安らぎをもたらす空間であり続けるような人工海浜公園の計画や建設が必要である。

（参考文献）１）小池一之(1997)「海岸とつきあう」岩波書店、pp.114－124.

２）畠山敦子、井口かおる、竹澤三雄、前野賀彦(1998)「人工海浜公園に関する意識調査について」第 26 回土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集、Ⅶ－６、pp.1062－1063.